

# 健康万歩計

## 「つづらご」=帯状疱疹について

いたい皮ふ科 院長 板井 恒二 先生

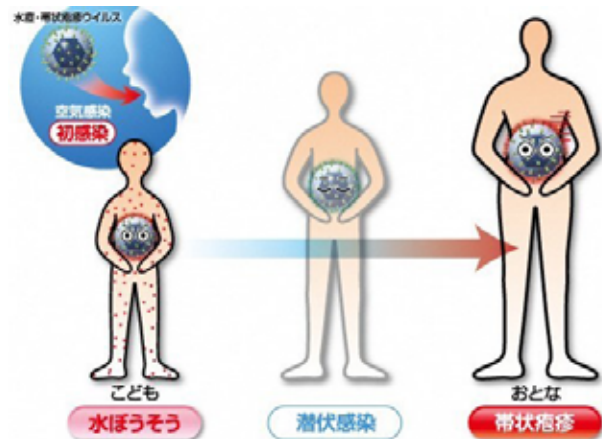
「つづらご」にかかったんでないべか!?!と血相を変えて来院される患者さんが多くみられます。帯状疱疹が体全体に出たら死ぬ（一回りすれば死ぬ!）とか一生、神経痛残る!と友人や家族に脅されて受診されますが、実は、帯状疱疹によって死亡するわけではありません。末期癌や白血病等の方が、亡くなる直前に免疫が非常に低下した状態になると、体全体に重度の帯状疱疹が出る可能性があるということなのです。私は、皮膚科医を30年近くやっておりますが、一回りしたり、死亡する例は診たり聞いたりしたことはありませんので、ご安心ください。また、不安が強い方は痛みが長引きやすい傾向にあります。そのため、必要以上に不安をあおらないことをお勧めします。そのような患者さんへは、抗うつ剤も痛みの治療に非常によく効くことがあります。

神経痛は、重症例や治療が遅かった方、糖尿病等の免疫低下があると起こしやすいのは確かです。痛みが続くと、脳に痛みの記憶がトラウマのように刻み込まれるため、少しの痛みでも敏感になります。しかし、痛みの治療をしっかりすれば日常生活で気にならないくらいにはなります。治療しても難治なら、主治医に早めにペインクリニックへ紹介状を書いてもらうと良いでしょう。

帯状疱疹は、小さいときに罹った水ぼうそう（水痘）のウイルスが、背骨近くの太い神経のこぶに住み着いたものが、皮膚まで神経を壊しながら伝わって再発したものです。普段はそのこぶから出ないように、免疫細胞が見張っておりますが、疲れ、寝不足、ストレス、ワクチン等で一時的に免疫が低下すると、見張りが手薄になります。ウイルスはそれ幸

いと、脱走して初めは神経を壊して皮膚を目指します。ウイルスは皮膚に出れば、仲間を周りに増やしてバラまくことができます。しかし途中で神経の中や周囲で、免疫細胞たちとけんかが始まります。そのため炎症が起きて、神経が壊れて痛み、軽い場合は痒みが出ます。その後皮膚まで前線が押されれば、皮膚まで水ぶくれを作ってやっと「つづらご（帯状疱疹）」と診断がつくようになります。

初めは痛みだけなので、整形外科などを受診するため、神経痛と診断されることが多いです。水ぶくれが出れば誰でも診断がつくのですが、神経痛だけだと皮膚科専門医でも誤診をすることがあります。検査薬もありますが、初期の場合はインフルエンザやコロナの検査キットと同じで陽性にならない場合もあります。初期の場合、こまめな受診が必要ですので、ご了承ください。自称「つづらご」でもよいので、心配になったらご遠慮無く、受診しましょう。



**救急医療当番医** 診療時間 9:00~12:00 \*受診前に必ず各医療機関に電話で確認してください。

日程	病院名	電話番号	消防署救急病院 紹介電話 34-4999
11月3日(金)	増田病院(新町41)	35-2726	
11月5日(日)	白生会胃腸病院(中平井町142-1)	34-6111	
11月19日(日)	かねひらクリニック(旭町55-2)	35-3167	
11月26日(日)	白生会胃腸病院(中平井町142-1)	34-6111	

### 人口のうごき

令和5年9月末 住民基本台帳 ( )内は前月比

総人口…50,869人(-55人) 男…23,341人(-23人) 女…27,528人(-32人) 世帯数…25,607世帯(+7)